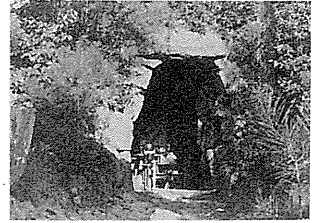


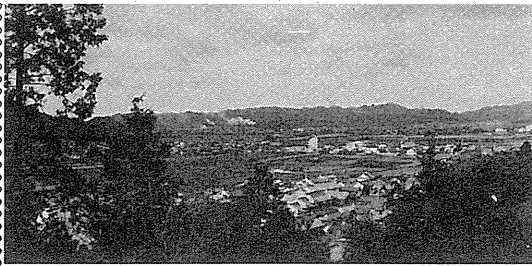
『^ただ
多駝の里』をたずねて

多駝の里 山田町北山田梅林寺のつづら折の山道に祀られた四国八十八か所の石仏を拝みつつ標高109mの山頂に達すると、片袖横穴式石室の御大師山古墳がある。ここから四周を眺めると、西方眼下に標高93mの観音山頂上に前方後円墳の清盛塚がみえ、その下平田川流域平地の西の台地上に諏訪神社の森（諏訪の岩穴）が見える。さらにその西方には南北に長く連なる西光寺野台地が広がり、台地の西方の船津地区には市川左岸の中・低位段丘面が広がり市川に達しているのが望



御大師山古墳の石室

見できる。南方眼下には山田の平地が東西に広がり、東は加西市西部へ連なっている。この地域一帯は市川中流で最も広い平原で、『播磨国風土記』では「^{おわちの}邑日野」といい、このうち船津町・山田町と神崎郡福崎町八千種の地域を「多駝里」といった。応神天皇がこの地に巡幸の時、佐伯直（播磨国造）の祖先の阿我乃古が天皇に直接願い出てこの地をもらったことから「多駝里」の地名が起こったという。いまこの御大師山から広々とした周囲を眺めると、古代豪族がこの地を開き古墳や寺院を造り、一大勢力圏を築こうとした意図が察せられる。



御大師山からみた多駝の里

諏訪の岩穴（県指定史跡）と多田廃寺（山田町西多田、西山田バス停北西600m）

諏訪神社は全長40mの前方後円墳の横穴式石室を神殿とした珍しいもので、「諏訪の岩穴」として県指定史跡になっている。この森の西北300m付近が多田廃寺跡で、白鳳期創建の東西両塔をもった薬師寺様式の大伽藍があった。今は圃場に整備され痕跡も残っていないが、塔心礎2個は諏訪神社境内に、青銅製宝珠は東京国立博物館に、石造相輪（県下で2か所）の一部が東多田専光寺に保存されている。なお西光寺野南端部の仁色薬師堂跡付近より奈良～平安初期の古瓦・土器片等が出土し、廃寺跡の存在をにおわせる。上野地福寺の大日如来坐像・中野薬常寺の薬師如来坐像はこの廃寺より移したものと、地元ではいい伝えられている。（播但線溝口駅南方には白鳳期の溝口廃寺跡があり、塔礎石が残っている）



諏訪神社（諏訪の岩穴）

多田の六地藏（山田町西多田）西多田集落西方約200mの墓地人口の六地藏の左端石仏に「元禄元年辰年正月日」（1688）の紀年銘がある。これは市内で確認されている六地藏の中では古いものである。

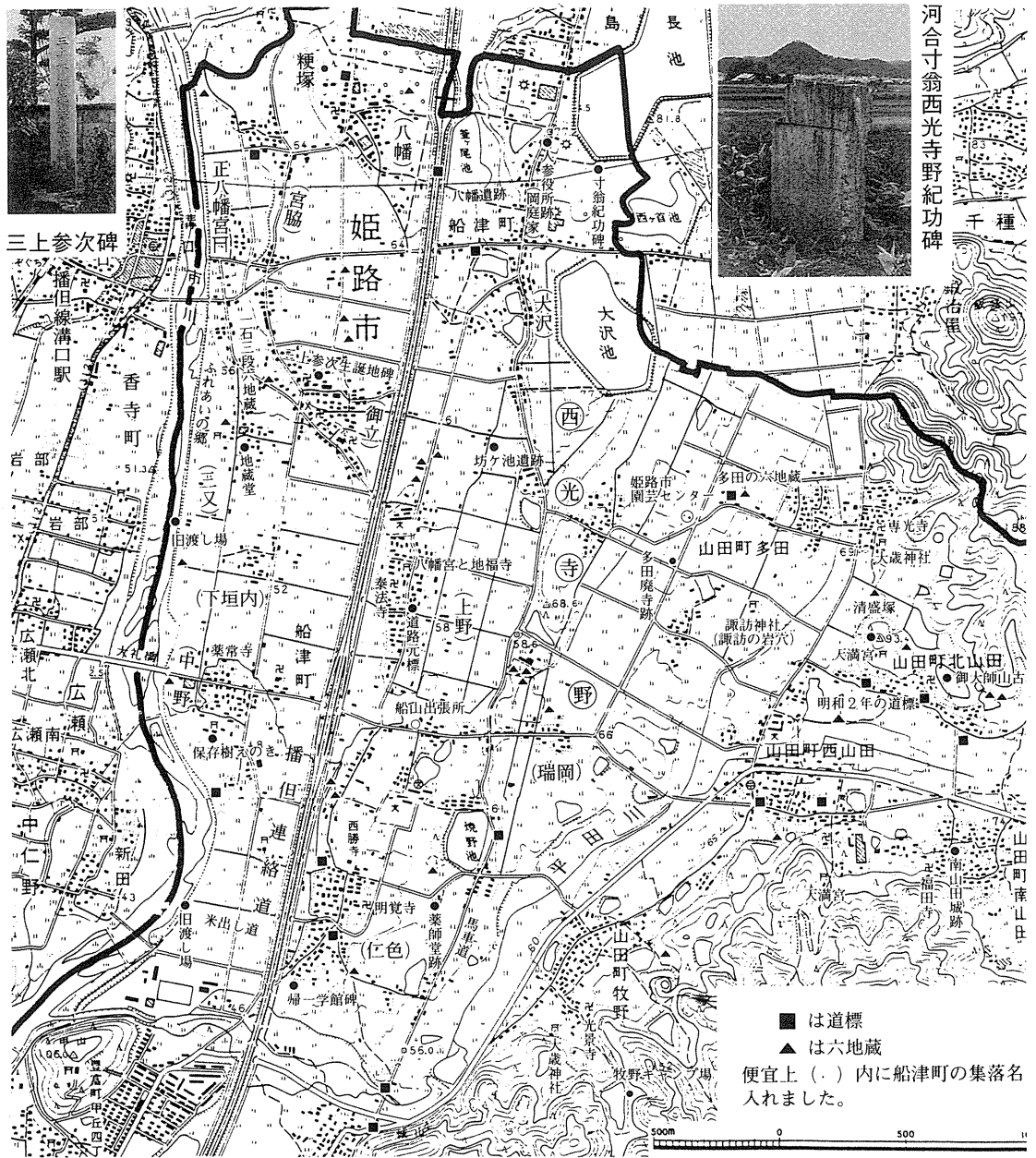
六歳神社（山田町東多田）元禄15年（1702）銘の掛金燈籠（摂州坂籠町山崎屋徳兵衛奉納）1対、宝暦9年（1759）の石燈籠などがある。



西多田の六地藏(左端は道標)



多田廃寺塔心礎



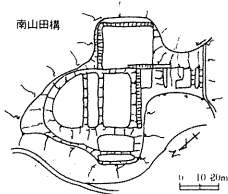
清盛塚（山田町北山田）北山田天満神社背後の観音山頂上に全長40mの前方後円墳がある。通称は「清盛塚」。未発掘のため詳細不明だが、多駝里の初期の古墳と思われる。

道標と一石一字法華経塚（山田町北山田）北山田天満神社の南に明和2年（1765）造立の市内で2番目に古い道標がある。自然石に地蔵像を浮彫にし、「右たじま道」裏面に「明和二年酉谷口助五口」の銘がある。その背後に「天明8稔歳次戊申龍集日明善坊豪湛」と銘記した一石一字法華経塚がある。かつて主な辻には道標があって旅人の心をなごませていたが、今では山田町10基、船津町に11基しか残っていない。



明和二年の道標（1765）と一石一字の法華経塔

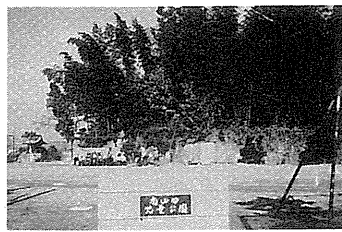
『兵庫県の中世城館・荘園遺跡』より



福地の六面幢六地藏

南山田城跡と福田寺（山田町南山田）

村の中央に周囲300m程の城山がある。一部は公園になっているが北部の藪の中に三段の平坦地がみられ、戦国末期の丘城の遺構を留めている。城は播磨後藤氏の一族基国もとくにが築き、その子後藤又兵衛基次もととの居城であったと伝えられている。城山の西方には法道仙人開基といわれる天

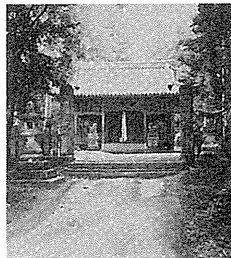


南山田城跡(後藤氏をまつる小祠)

台宗福田寺があり、本尊阿弥陀如来像や如意輪観音像（共に室町初期の作）などが安置されている。村の東端、福地の地蔵堂に六面幢六地藏がある。

大歳神社と光景寺（山田町牧野）

村南端の大歳神社には宝暦14年（1764）銘の石鳥居をはじめ、明和・文化・文政期の銘のある石燈籠・狛犬、文化10年の「万歳図」等の絵馬などがある。神社の北東山麓に光景寺があり、本尊の両脇に木造十六羅漢像が祭られている。境内の小祠には青面金剛絵像図、背後の山腹には百体の観音石仏が祀られている。また地蔵堂にある延宝6年（1678）銘の地蔵像には、寺の盛衰にまつわる伝承が残されている。



牧野 大歳神社 光景寺の地蔵

人參役所跡（船津町大沢）と西光寺野の開発 江戸時代文政年間姫路藩政

改革の一環として河合寸翁が西光寺野に朝鮮人参栽培を試み、天保元年（1830）には人参製役所（薬用人は岡庭小平）が設けられた。役所跡は現在の岡庭酒造会社である。人参栽培は明治初年まで続き、長池堤防下に「寸翁大夫西光寺野紀功碑」がある。西光寺野開発は江戸承応年間



人參役所跡（岡庭家と馬車道）

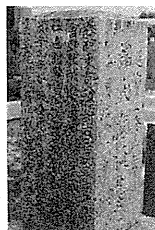
（1652～55）仁色村福永彦太夫により八幡新村が開かれたのが最初で、八幡墓地の彦太夫墓碑に顕彰文が刻まれている。寸翁による人参栽培は第2次開発で、大正初年には大規模な全面開発が行われ、サイフォン式用水路をつくり約340haの耕地が開かれた。しかし、それによって多田廃寺跡などの遺跡が消滅したのが惜まれる。

ぬかおか
稷岡（船津町八幡）八幡集落の北部に竹木におおわれた小丘がある。『播磨国風土記』にいう「稷岡」または「城牟礼山」である。伊和大神あめのひぼこと天日槍命との戦にまつわる地で、伊和族の播磨中央部への進出過程と渡来人系の人々の姿を表わした物語であろう。

船津瓦（立場瓦）について 西光寺野の西側一帯は良質の粘土層が分布していた。文化2年（1805）姫路小利木町の小林又右衛門が御用瓦師として大沢に窯を築いてより、船津瓦（馬車道修築後は立場瓦と呼ばれた）の産地となった。現在も後継の小林瓦合資会社他6社が製造しており、文化財の修復用瓦で全国的に知られる小林平一氏宅もこの流れをくむ一社である。



稷岡（城牟礼山）



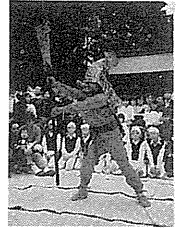
福永彦太夫墓碑

正八幡神社 (船津町宮脇、播但線溝口駅東800m)

船津町の北西端近くに正八幡神社の森があり、樹令700年のケヤキなど5本の姫路市保存樹がある。かつて神宮寺をもち鎌倉期の神像3体、正和3年銘(1314)の軒平瓦、室町~江戸期の棟札十数枚や鬼面4面、それに四十七士いけば図他多数の絵馬等を蔵し、盛時には船津郷と神西郡の部北条12か村の総氏神であった。10月10日の礼祭には竜王舞や獅子舞などが奉納される。

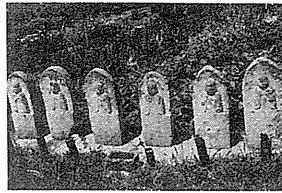


鎌倉期の御神像



竜王舞

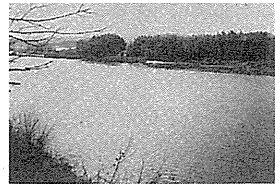
地蔵像 (船津町御立・三又) 御立の通称市場条には古びた二尊像と一石三段六地蔵(市内では珍しい型)がある。地名から市川中流の交通要地にあった中世の市場跡地に地蔵像を祭ったものだろう。三又墓地の六地蔵は享保11年(1726)の紀年銘や造立者銘、それに六尊全部に菩提名が彫られた珍しいもの。また三又の地蔵堂には六面幢六地蔵がある。



御立市場条の六地蔵

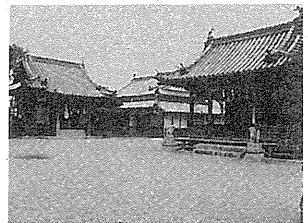
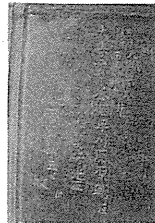
三又の六地蔵
享保11年(1726)

市川船泊り場 (船津町三又) 三又の市川河岸がかったの船泊り場で、対岸(神崎郡香寺町岩部)との渡し場跡である。市川の上下と東西を結ぶ要地で、「船津」の地名の発祥地とも考えられる。江戸時代山田から上野・三又への道を宍粟道、仁色・中野から三又への道を姫路道と呼んだ。若宮神社境内に「左かや・志そう、右ひめじ道」の道標がある。また「い王べ」(岩部)の地名を刻んだ道標が西山田・大沢・仁色にある。



かったの渡し場付近
(対岸は岩部)

三上参次碑 (船津町御立) 幸田家の宅地内に「三上参次先生誕生之处」の碑がある。彼は慶応元年幸田家に生まれ、8才で姫路三上家の養子となった。わが国の国史研究の第一人者で、戦前姫路城の国宝指定についても彼の力が大きかった。



泰法寺梵鐘銘

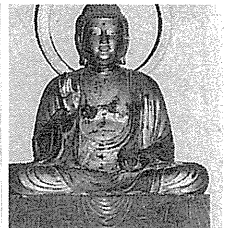
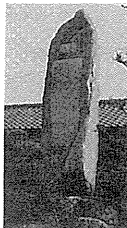
上野・地福寺と八幡宮

上野八幡宮とその周辺 (船津町上野、上野バス停東)

村の中央に八幡宮があり、阿弥陀如来坐像(鎌倉末期作)を御神体とする元宮を合祀している。境内西部にある地福寺は、仁色廃寺から移されたという大日如来像を本尊とし、明和2年(1765)妙心寺の高僧・白隠はくいん禅師により中興された寺。神社南西に泰法寺があり梵鐘には元和7年(1621)の銘がある。この地は上野構居(『播磨鑑』には「領主ハ大塚将監 赤松ノ幕下 永禄ノ頃」とある)跡に比定され、現在の村の中央道路は当時の馬場・射場跡といわれる。子供広場には大正時代の船津村道路元標が置いてある。

薬常寺 (船津町中野) 村の東端にある薬常寺は行基の開山と伝える天台宗の寺で、本尊の薬師如来像は仁色廃寺より移したといわれる鎌倉末期の立派な木造。境内には菩提樹の古木があり、かつて村内に散在していた石造品などが集められている。

西勝寺と明覚寺 (船津町仁色) 西勝寺は村の北端にあり、天保年間再建の本堂は総ケヤキ造り。境内に二基の顕彰碑がある。村中央の明覚寺の本尊阿弥陀如来像は江戸初期の作とみられ、仏師「宗重」の刻印がある。



帰一学館碑

明覚寺の本尊

薬常寺の本尊

帰一学館碑 (船津町仁色) 仁色集落の南端・児童公園の一角に帰一学館の碑が建っている。明治23年この地に青田節が創設した私塾で、宮脇にあった東郷学院とともに農村青年の育成に大きな役割を果たした。

■編集 藤井寿(姫路市文化財嘱託調査員)

●本号の調査に当っては船津郷土史研究会の協力を得ました。